

平成24年 年頭のあいさつ

―まちづくりの新たなスタートにあたって―

町民の皆さま、新年明けましておめでとうございます。
輝かしい新春を健やかに迎えのことと心からお慶び申し上げます。



興を願ってやみません。

町民の皆さまには、被災された方への義援金、支援物資の募集に対しまして、多くの温かいご支援をいただきました。あらためましてここに御礼申し上げます。

第9次総合計画について

さて、町政におきましては、本年より第9次総合計画に基づく新たなまちづくりの第一歩を踏み出すこととなります。これまでの第8次総合計画では、単独自立を選択した岩美町の基礎固めを進めてきました。この計画期間中に浦富海岸を含む山陰海岸の世界ジオパークネットワークへの加盟認定や駒馳山パイパスの開通に目途がたったことは、自立のまちづくりを進めてきた本町にとって大きな成果となりました。

現在、策定作業を進めている第9次総合計画は、町民の代表42名からなるまちづくり委員会の皆さまに、長時間にわたって議論を重ねていただき、多くのご意見、ご提言をいた

だくなど、まさに、住民参画による計画づくりとすることができました。自立を確たるものとするためには、このように町民の皆さまと行政の協働による取り組みが不可欠です。自治会をはじめとする地域コミュニティの運営を支援するため、集落担当職

員の制度もはじめています。協働によるまちづくりを大きく飛躍させ、岩美町に暮らす町民一人ひとりが主役となって、様々な分野で力を発揮できる、そんなまちづくりを進めてまいります。

それでは、平成24年に取り組む施策などについて、いくつか述べさせていただきます。

定住促進の取り組みについて

我が国の人口は減少期にあり、本町においても平成17年から22年の5年間で908人の減少がありました。人口を増加させることは難しい状況ではありますが、人口の減少は地域活力の低下を招くことから、全ての事業を定住対策と位置づけ、定住促進を図ります。とりわけ子育て世代の定住が進むよう、妊婦健診費用の無料化、保育料の軽減、義務教育



昨年を振り返って

昨年は日本にとって忘れることのできない年となりました。3月11日、東日本を襲った巨大地震と大津波は、各地に壊滅的な被害をもたらし、多くの尊い命を奪いました。テレビや新聞などで報道される被災地の状況は目を覆うばかりの惨状で、一瞬のうちに大切な人を失った方々の深い悲しみや喪失感を思うと言葉がありませんでした。震災の爪痕は余りにも大きく、多くの方が家や家財を失い、今なお不自由な生活を送っておられます。震災によって犠牲になられた方々へのご冥福をお祈りするとともに、一刻も早い被災地の復